

	京都大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	文学部（第1年次：220名） 文学研究科（M：110名、D：55名） 人文科学研究所
沿 革	明治30（1897）年 京都帝国大学設置 明治39（1906）年 京都帝国大学文科大学設置 大正8（1919）年 文科大学を文学部に改称 昭和14（1939）年 旧人文科学研究所設置 昭和24（1949）年 京都大学文学部設置 旧人文科学研究所、東方文化研究所、西洋文化研究所 の三研究所を改組し、人文科学研究所を設置 昭和28（1953）年 文学研究科設置 平成22（2010）年 人文科学研究所が共同利用・共同研究拠点に認定
設置目的等	昭和14（1939）年に、旧人文科学研究所が設置された。 昭和24（1949）年に、京都大学文学部が設置された。また、同年、旧人文科学研究所、東方文化研究所、西洋文化研究所の三研究所が統合して、各研究所のそれまでの業績を継承しつつ、世界文化に関する人文科学の総合研究を行うことを目的として、人文科学研究所が設置された。 昭和28（1953）年に、修士課程・博士後期課程を通じて研究者を養成することを目的として、文学研究科が設置された。
強みや特色、 社会的な役割	【総論】 京都大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における人文科学分野の先導的役割を果たすべく、教育研究を実施してきたところ。 引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。 【教育】 (学部) ○ 歴史学、哲学、文学、行動科学等の分野の教育研究を通じて、自立的な問題発見、解決方法の模索、成果の検証と表現を行う能力、学際的な俯瞰力、世界の民族・言語文化の多様性を前提とした平和と共存に貢献

しうる能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。

- このため、少人数による対話・議論に基づく教育、学際的な科目履修、若手研究者が専門研究の魅力を学生に伝える「系ゼミ」や多様な語学授業などの教育カリキュラムを実施している。また、共同研究に大学院生を参加させ、国際シンポジウム等、研究発表や討議の機会を提供している。
- 今後、初年次からの学士教育課程の階層化と卒業所要単位・履修科目の再検討に取り組む等、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 歴史学、哲学、文学、行動科学等の分野の教育研究を通じて、日本の人文科学を継承・発展させ、学術基盤を形成すると同時に、海外での成果発信や国際共同研究などのグローバルな研究活動を積極的に行う研究者を養成する。
- このため、古今東西の文献・資史料、文物の徹底した読解や実験・調査の方法の教授と並行して、学生自身の着想と関心に基づく主体的な研究を促し、その成果を検証した上、国内外への発信を督励するために、少人数による演習や個人指導を行う教育カリキュラムを実施している。また、共同研究に大学院生を参加させ、国際シンポジウム等、研究発表や討議の機会を提供している。
- 今後、学生が社会の多様な場において専門性をいかし活躍できる環境を創出するため、各研究室・企業・学協会・NPO 等とのネットワークを形成し、学生のキャリア・パスとキャリア・サポートの多様化促進に取り組む等、社会人、留学生の受入を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。また、海外の大学との連携を通じ、人文科学分野の教育の国際通用性を確保する。

【研究】

- 日本学・アジア学分野における特に優れた世界最高水準の研究実績をいかし、現代アジアが共存・共生していくために、歴史的伝統をもつ京都の地の利をいかしながら日本学・アジア学の世界的拠点の形成を進めている。また、ハーバード燕京研究所（アメリカ）やロンドン大学東洋・アフリカ研究学院（イギリス）などの海外学術機関・大学等との交流協定の締結等により、年間約 60 名の外国人研究者を受け入れている。
さらに、卓越した所蔵研究資源を活用して、東西両洋文化の生成・文

化交渉に関する実証研究や共同利用・共同研究を進め、その成果を学界や地域社会に向けて多角的に発信している。

- これらの取組を通じて、論文や著書等により、「恩賜賞」「日本学士院賞」「紫綬褒章」など各種学術賞を受賞するほか、「日本学士院会員」に選定される等、学界から高い評価を得ている。
- 今後、さらなる国内外の学際的な拠点形成や新たな学術分野の創出に取り組む等、総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国の社会の課題解決・文化の発展を牽引する。

また、我が国の社会・文化に関する研究成果を国際的に広く発信することで、よりグローバルな知的資産の共有・社会的還元に努め、人文科学分野の発展と普及に貢献する。

【その他】

- 交流拠点大学と連携した学位授与制度の導入を目指す。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。